

# BUNGO WORLD

# ishikawa

# Bungo World

『ぶんごわ～るど』は、大分県在住の青年海外協力隊経験者組織である大分県青年海外協力協会の会報誌です。この会報では、主に、協会の活動やOB OG隊員の帰国後の活動の様子、現在海外へ派遣されている隊員からの活動報告を掲載しています。かつて豊後(Bungo)の国と呼ばれていた大分県から世界(World)へ雄飛した若者達の活躍ぶりを是非ご一読ください。



パテラ

みなさん、こんにちは。

今私は、ペルーの首都リマでシニアボランティア水泳隊員として、水泳連盟のプールでボランティア活動を行っています。主な活動は、パテラと言って深さ60センチの子ども用専用プールで、3歳から6歳までの子ども対象に水慣れを目的に水泳を教えています。

今日はリマの交通事情についてお話ししましょう。

どこの国の首都でも交通事情の悩みを抱えています。ここリマでも同様で、朝と夕方の仕事の行き帰りの交通渋滞は、凄まじく、車が途切れません。人々は渋滞で停車している車の間を縫うようにして道路を渡ります。信号機はもちろん設置されていますが、ルールが異なることと、無視して走る車が多いので、信号、車と前後左右をよく見て歩くようにしています。

この渋滞対策で登場したのが、「メトロポリタノ」です。外観は2両連結のバス、乗ってみるとまるで電車。専用レーンを走るので早いこと早いこと。そして信号停止もなく次の駅まで止まりません。普



メトロポリターノ

通のバスに比べると運賃は高いのですが、渋滞の車を横目に快適に走ります。

普段利用するバスは、公営バス、私営バスに分かれます。私営バスの大きさはいろいろあって、一般的な日本のバス程度の30席のミクロバス、20席程度のコンビ、10席くらいのコレクティーボなどがあり、運賃は30円から100円位と安く設定されています。タクシーに関してはJICAでは無線タクシーが推奨されています。流しのタクシーは多く、登録されたもの、そうでないものがあり、市民は腕を上げてタクシーが停車すると、挨拶の後、値段交渉に入ります。運転手、客双方の条件が合わないと破談となります。タクシーも日本に比べるととても安く、市民はよく利用します。何年か前にタクシーにメーカー導入が実験されたのですが、客、タクシー双方に気に入られなかったそうです。

最後にミラバス。観光バスです。これも行き先に色々種類があり、リマの旧市街歴史的建築物を見る

コース。近代的文化に触れるコース。フォルクローレを見ながらビュッフェを楽しむコース。噴水公園で光と音のショーを楽しむコース。そして遺跡を訪ねるコースなど。リマは人口1000万人の大都市ですが交通網を上手に利用すると、いろんなところへ便利に行けます。



ミラバス

## 『マラウイ聾学校での共通言語は…』



期末試験後の見直し補習

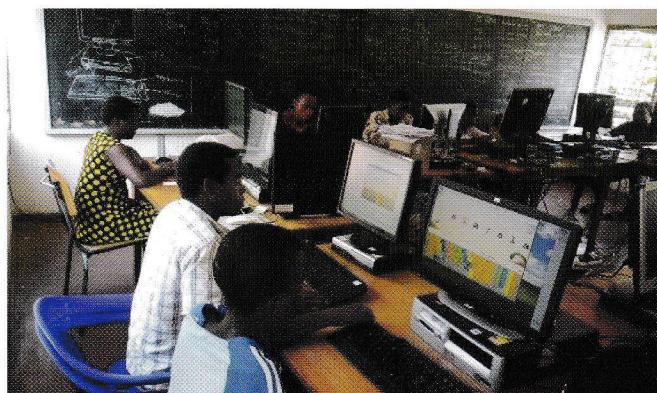
私は今、マラウイのムア聾学校で、6歳～18歳までの生徒の先生をしています。

マラウイの公用語はチエワ語・英語で、その他にも10言語ほど話されていると言われています。任地の聾学校では、生徒とはマラウイ手話、先生とは現地語と英語でコミュニケーションを取ります。英語が苦手で、それに加えて初めての手話、現地語も

2017年度3次隊・  
マラウイ・障がい児/障がい者支援

上田 啓介（福岡県出身）  
(元日田市前津江町地域おこし協力隊)

わからない、そんな不安な中でのスタートでした。赴任して1週間、身振り手振りでパソコンの授業をしたのは、今ではいい思い出です。できないからこそ、どうしたら上手く授業ができるようになるか、相手に自分の考えが伝わるかを試行錯誤でき、よい経験になっています。活動でもプライベートでも、自分と現地の人が一緒に笑って過ごせているのがなによりだと思っています。手話と現地語と英語と、どれも得意とはいえませんが、少しの言葉でも気持



コンピューターの授業

ちでつながれている気がしています。

マラワイ生活を一言で表すなら、“面白い”。ここでの生活は、想像をこえたことがたくさん起こります。衣食住文化の違いといえば一言ですが、時間の流れが違う、学校が急に休みになるなどはよくある話で、他にも『蛇口があるが一度も水が出たことがない。電柱が倒れて地域に電気が1ヶ月間来ない。雨季に屋根が壊れて家の中に川ができた。玄関に牛やヤギが座って休んでる。木になったレモンを落とすために投げた石が教室の窓にあたり割れる』など、日本では聞かないような珍事件がたくさん起こります。そんな時には周りの人が親身になって助けてくれます。家に川ができた時には、すぐに10人ほど集まり、屋根を修理してくれました。ウォームハートオブアフリカと言われる所以を日々感じています。そのような人達と一緒に過ごしていて、人とのつな

がりの大切さを痛感しています。残りの期間も、日本とは違った日常を楽しみながら、活動に励みたいと思います。



石ころを使って数字の勉強をしている幼児1年生

## 『世界一暑い国ジブチでの1年を終えて』



2018年度1次隊・  
ジブチ・小学校教育

山本 純奈（佐伯市出身）



算数の指導をする山本隊員

こんにちは。2018年度1次隊の山本純奈です。アフリカの東に位置するジブチという国で、小学校教育の分野で活動しています。ジブチは人口100万人程のとても小さな国で、日本にいるとなかなかその名前を聞くことはないと思います。私自身も、派遣が決まった時はどんなところか想像がつきませんでした。派遣前にジブチについて聞いたり調べたりしたときに必ず出てくる言葉は「暑い」でした。そして派遣後すぐにその意味が分かりました。ジブチ

は世界一暑い国と言われ、夏は毎日40度を超えるのが普通です。そんなジブチでの活動と生活について紹介します。

私の任地は、首都ジブチからバスで3時間ほどのディキルという町です。この町の小学校で、主に1、2年生の算数の授業を現地の先生と一緒にを行い、授業の質を向上させることが私の活動です。現地の先生の基本的な授業は、教科書の問題を黒板に写して、それを子どもに解かせ、答え合わせをするというスタイルです。問題の解き方を説明したり、子どものいろんな考え方をクラスで共有したりするのではなく、子どもの答えが合っているかどうかを見るだけなので、できる子はどんどん伸び、理解の遅い子はどんどん遅れてしまうという課題があります。そこで、私は先生方と一緒に授業をする中で、板書の際に文字を書くだけでなく絵を貼ったり、数字の理解が遅れている子どもに数字カードを作ったりなど、できるだけ全員が授業に参加できるように工夫しています。ほんの少しの工夫ですが、板書に絵が加わったりするだけで、子どもの反応の食いつきがよくなります。このような授業実践を繰り返し、より多くの子どもが積極的に参加するような授業を、現地の先生と一緒に作っていきたいと思います。



カード教材を使った授業に取り組む子ども達

任地での生活は、日本に比べればもちろん不便なことはたくさんあります。ですが、ジブチは人がとても優しく、困ったときはいつも誰かが助けてくれます。停電が戻らないときは、同僚の先生が助けてくれ、重たい水を運ぶ時には近所の青年が一緒に運んでくれたりします。私のことを家族の一員として受け入れてくれるジブチ人もいます。このようなジ

ブチ人のお陰で、ジブチでの生活を楽しむことができています。

ジブチに来て1年が経ち、折り返し地点に来ました。2年目は、活動生活共により充実したものができるよう、もっともっとジブチ人と積極的に関わっていこうと思います。



ジブチの家族との食事

## 協力隊OGによる出前講座

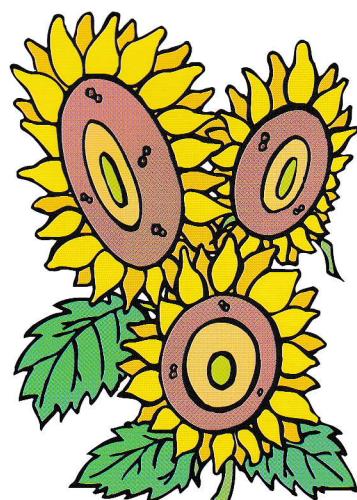
6月28日(金)、大分県立芸術短期大学において、羽田野直子OG（2016－2モザンビーク・青少年活動）が『国際ボランティア論』の出前講座を行ないました。121名の国際学科1年生を対象に、モザンビークの教育事情や現地の人々の生活の様子、JICA海外協力隊について等写真や動画を使って説明しました。生徒からは、

「今回の講義を受けるまで、先進国と途上国を分けて考えて、途上国の生活は困難でかわいそうだと勝手に思っていました」

「日本では絶対に考えられないような慣習でもその国では日常なのと同様に、その国から見たら日本で生魚を食べたりトイレットペーパーを使用したりすることは驚きであることを知りました。海外に行くときは、文化の違いを柔軟に受け入れることが重要だなと思いました」

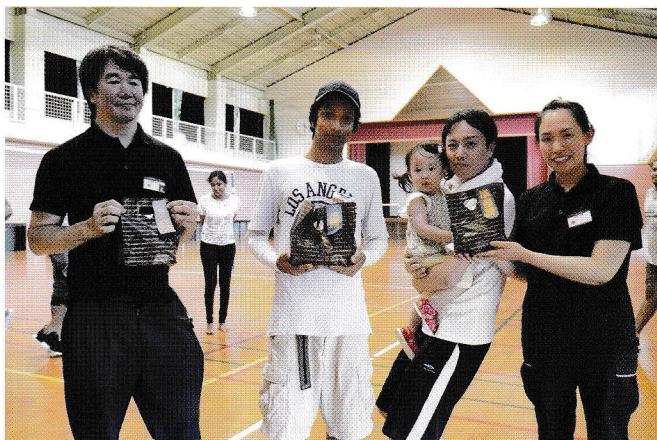
「70日間の（協力隊派遣前）訓練に耐えられるか不安でなかなか声を大にして言えませんが…JICA海外協力隊に是非加わりたいです」等の感想をもらいました。

大分県OBOGの皆さん、次世代に続く未来のJICA海外協力隊員はまだまだたくさんいます。周りに協力隊へ参加してみたい、興味があるので話を聞いてみたい、という方がいらっしゃいましたら是非ご自身の体験談をお話しされ、協力隊ナビやJICAデスクをご紹介ください。



# 在日スリランカ人とのスポーツ交流会

8月4日(日)、日出町渓泉寮体育館にて、長岡健朗OB (S63-1 フィリピン・獣医師) の呼びかけにより、大分市や別府市在住のスリランカ人8名、モザンビーク人1名、日本人15名が集まり、バレーボールを行ないました。それぞれの国籍や派遣されていた国が分かるよう国旗のマークと、スリランカ語と日本語で書かれた名前が書かれた名札を各々が胸に付け多国籍チームで戦いました。優勝はサナーサン (スリランカ国籍)、2位は一般参加の岩田夫妻、3位は松岡健次郎OB (H20-3 ネパール) で



した。

その後、日出町社会福祉総合センターへ移動し、参加者全員でスリランカ料理を作りました。始めに高瀬会美OG (2016-3 スリランカ・看護師) が食材についての解説をし、次にスリランカ人のルミンダさんに作り方を教わりました。当日は、大分市の七タイイベントと重なっていましたが、終了後に駆けつけて下さったJICA大分デスクの井本さんやOB・OGの皆さんも本当にありがとうございました。次回はどんな楽しい企画が待っているかな?



スリランカの国旗



# JICAデスク大分 国際協力推進員 交代しました

2015年～2019年の4年間、JICAデスク大分の国際協力推進員として大分県の国際理解やJICAの活動推進のため尽力下さっていた佐保好信氏（H22年度4次隊フィリピン・服飾）がこの度2019年3月31日をもって任期満了し、井本望氏（平成26年度1次隊セントルシア・青少年活動・山口県出身）が就任しました。以下、井本氏へのインタビュー記事を掲載します。

～協力隊時代の活動内容について教えてください～

現地赤十字社に配属され、青少年部門のフィールドオフィサーとして、計17校、約400名の児童・生徒を対象に、2年4か月間、各校JRCグループの活性化を目的として活動していました。具体的には、日本のJRCとの異文化理解交流プロジェクトや、ご

み拾いによる地域のクリーンアップ作戦を通じた環境学習などを実施しました。

～日本ではどのようなお仕事をされていたのですか～

前職は、協力隊前は官公庁で青年国際交流事業の担当を、帰国後は難民支援団体で勤務していました。  
～ベタですが、趣味は何ですか～

国際交流、映画鑑賞、読書、旅行、美食探訪です。

～最後に、この広報誌をご覧になっている皆さんに一言メッセージをお願いします！～

大分県は私にとって新たな任地のような感覚があります。国際協力を通じて県内を盛り上げられるよう、JICAデスク大分として精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします！

大分市街へ足をお運びの際は是非JICAデスクへお立ち寄りください。



写真は隊員時代のもの／JRCの生徒と共にスーパー前で赤十字の活動を広報

## 行事報告

2019年

3月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
	2018年度 4次隊県庁表敬訪問・出発隊員壮行会	(県庁／かみ風船)
4月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
5月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
	2019年度大分県青年海外協力協会帰国報告会・総会	(ホルトホール大分)
6月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
	協力隊OBOGによる出前講座	(大分県立芸術短期大学)
7月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
	協力隊OBOGによる出前講座	(大分県立竹田高校)
8月	たなばたスタートエクスプレス2019 JICAブース出展への協力	(iichiko総合文化センター)
	在日スリランカ人とのスポーツ交流会	(日出町渓泉寮体育館)
	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
	ワールドフェスタinひた2019 JICAブース出展への協力・協力隊体験談	(日田市総合体育館)
	協力隊OBOGの提案により出前講座実施	
	(別府市立別府南小学校 南子育て仲良しクラブ・第2南子育て仲良しクラブ)	

※協力隊ナビとは？

毎月第2水曜日18:00～20:00、iichiko総合文化センター1階で行なっているJICA海外協力隊員OBOGによる個別相談会です。予約は不要、無料で行なっています。『海外協力隊』のノボリが目印です☆

## 今後の行事予定

9月	JICA海外協力隊派遣留守家族連絡会<JICA九州との共催>	(ホルトホール大分)
	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
	JICA海外協力隊説明会・応募相談会への協力	(iichiko総合文化センター)
10月	«ああいた国際協力啓発月間»	
	ああいたワールドフェスタ2019 OBブース出展	(コンパルホール)
	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
11月	2019ひじ産業文化まつり パネル展示	(日出町中央公民館・体育館)
	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
	2019年度 2次隊 県庁表敬訪問・壮行会	
12月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
1月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)
2月	協力隊ナビ	(iichiko総合文化センター 1階)

## 帰国隊員

### 2016年度 3次隊

高瀬 会美 スリランカ・看護師（大分市）

### 2016年度 4次隊

藏本 有紀 ザンビア・PCインストラクター（大分市）

信末 健一 ガーナ・電気電子設備（中津市）

中ノ瀬寛明 インドネシア・環境教育（豊後高田市）

垣迫 雄斗 モザンビーク・コンピュータ技術（臼田町）

村上 康明 ベトナム・きのこ栽培（大分市）

遠野 立野 エチオピア・体育（大分市）

上岡莉枝子 ウガンダ・食用作物／稻作栽培（大分市）

宗 里奈 ブラジル・日系日本語学校教師（宇佐市）



恒例のかみ風船にて。高瀬隊員お帰りなさい&2018-4  
いってらっしゃい。佐保デスクお疲れさまでした！&井本  
デスクようこそ！色々満載ですね^~

## JICA海外協力隊とは？

### 制度が変わりました

JICA海外協力隊は、国際協力機構（JICA）が実施する国の事業で、昭和40年の発足以来すでに88か国へ約40,000名の日本人青年が派遣されました。現在も1,700余名の隊員が世界70ヶ国にて、現地の人々と同じ言葉を話しそうに生活しながら、開発途上国の国造りのために協力しています。

協力隊員の募集は、春と秋の年2回行われます。募集説明会は全国各地にて時期を問わず行われています。

2019年度より、従来の『青年海外協力隊』から『JICA海外協力隊』へと呼称が変更になっています。

「一般案件」にて派遣される隊員を20～45歳までは青年海外協力隊／日系社会青年海外協力隊、46～69歳までは海外協力隊／日系社会海外協力隊、「シニア案件」にて派遣される隊員をシニア海外協力隊／日系社会シニア海外協力隊と呼びます。『JICA海外協力隊』を派遣者の総称としています。

詳しくは、大分県青年海外協力協会（upepo777@yahoo.co.jp）またはJICAデスク大分（097-533-4021）へお問い合わせいただけ、JICA九州ホームページをご覧ください。

## 編集後記

先月、協力隊時代に出会った知人が遠路はるばるモザンビークから遊びに来てくれました。初めての日本に、彼は『日本の道はゴミ一つなくとてもきれいだ』と感動する一方で、猛暑のためか道路にほとんど人が歩いていないのを見て、『モザンビークと全然違う。こんなに人がいないのは寂しい』と嘆いていました。そういえば…任地では歩く度に現地人に話しかけられ、家から職場までのたった10分の道に1時間かかり辿り着く頃にはヘトヘトになっていたなあ…と記憶が甦りました。

皆様、残暑厳しい中、お体を壊されませんよう。

## 派遣隊員

### 2018年度 4次隊

濱渕 華子 パラグアイ・看護師（大分市）

下辻 浩平 インド・コミュニティ開発（大分市）

木津 史恵 ガーナ・保健師（竹田市）



県庁表敬訪問に訪れた、  
(左から) 木津、濱渕、下辻隊員。

大分県青年海外協力協会 会報

### 『ぶんごわ～んど』

令和元年9月発行 第66号

発行：大分県青年海外協力協会

MAIL : upepo777@yahoo.co.jp

★皆さまのご意見・ご感想、お便りをお待ちしています。

★現在会報では、『OB/OGは今?』のインタビューを受けて下さる方を募集しています。自薦他薦問いません。

★11月のひじ産業文化まつり パネル展示準備に向け、OBOGの皆さまの写真を募集中です。ご本人が写っている隊員時代の活動写真をお送りください。採用された写真はパネル展示と同サイズにラミネート加工しプレゼントいたします。

～いずれも問い合わせは上記MAILアドレスまで～